

①イイナパーク川口と連携した首都高ハイウェイオアシス事業

受賞機関 首都高速道路株式会社
川口市

キーワード ハイウェイオアシス、公園整備とPA整備事業の連携、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

都市高速初のハイウェイオアシスとなる高速道路PAと公園の一体的な整備事業。高速道路利用者と地域住民の双方の利便性向上、地域活性化につながっている点や、コロナ禍においても密を回避して安心して利用できる空間として活用されて利用者を伸ばし地域の活性化に効果を発揮している点が評価された。

1. はじめに

平成24年3月から、川口市赤山地域に『広域的な集客に配慮した「水と緑のオアシス空間」の創出』というテーマを掲げ、川口市の公園整備事業（イイナパーク川口）とともに首都高速道路川口PAを拡大する一体事業を開始し、令和4年4月に都市部として初となるハイウェイオアシスが開業した。

2. 事業の概要

地域振興及び首都高速道路を利用される方々の利便性向上の観点から、高速道路を降りずに公園や地域を散策することができるように、イイナパーク川口（赤山歴史自然公園）と川口PAとを連結した。これに伴い、従来の川口PAの休憩所の一部を廃止し、公園内に新たにレストラン、川口市の物産を販売する売店やカフェ及び休憩所・トイレ、さらに雨天時でも子供たちが体を動かして遊ぶことができる関東最大級の屋内遊具施設を設置して、公園利用者、高速道路利用者が共に利用可能となる都市高速道路としては新たな形態の多目的型施設となっている。



ハイウェイオアシスの施設

3. 事業の成果

地域拠点整備事業として高速道路と公園をつなぎ、一体的に整備したことで、首都高速道路を利用される方々が公園や地域を散策できるとともに、地域住民の方をはじめとして、高速道路と公園の両方の利用者が共に利用できる施設を整備し、双方の利便性向上と地域振興に寄与した。

また、コロナ禍においても、都心から車で気軽に外出することができるとともに、広い公園と関東最大級の屋内遊具施設（一部屋外エリアを含む）を備えていることから、密を回避し安心して寛ぐことができる空間を提供した。また、川口市と首都高速道路（株）で公園と道路をつなぐイベントを共同で開催し、自動車ユーザーから地域の子供たちまで楽しめる場を提供した。

建物デザインにおいては、コンセプト構築段階から川口市と首都高速道路（株）で協力し、公園整備とPA整備事業の連携による景観の調和に努めた。具体的には、整備を行った地域は赤山城があった歴史ある土地であることから、城址に見合った「和」を意識し、黒、白、灰色など日本の伝統色を基調とした色彩計画を行い、地域特性に合った建物及び外構を作り上げた。



交通安全イベントの状況

4. おわりに

ハイウェイオアシスの開業後、当初予想を上回る多くの方々にご利用いただき、地域の方々と高速道路利用者への双方向の情報発信や交流ができる場となっている。今後、様々なイベントの開催等を通じて更なる地域の活性化が期待される。

賛助会員 村本建設(株)、(株)UG都市建築

② 恵庭かわまちづくり事業 ～花の交流観光拠点と連携した水辺空間整備～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所 恵庭市

キーワード 道と川の駅、Park-PFI、花の拠点、水辺空間の創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

道と川の駅周辺における花の拠点（公園）整備と河川空間整備との連携事業。民間の住宅団地建設事業を含む、多岐にわたる事業連携を実施し、魅力ある職・住環境を創出している点や、河川と道路の結節点を上手く利用し、連携したイベントでは、約34万人を集客するなど、地域の活性化に効果をあげている点が評価された。

1. はじめに

北海道恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、交通アクセスや豊富な水資源に恵まれ、商業施設や医療機関、さらには、数多くの公園など生活利便性に富む自然豊かな地域である。

市街地には、サケの遡上が見られる「漁川^{いざりがわ}」や、縁辺部には多くの観光客が訪れる「恵庭溪谷」などがあり、豊かな自然環境とともに、市民主体による花のまちづくりが盛んで「花のまち」として全国的に知られている。

2. 事業の概要

恵庭市の総合戦略における「ガーデンデザインプロジェクト」では、職・住・観光機能拡充のため、国道36号と漁川が交差する場所にあたる道と川の駅周辺を「花の拠点」と位置づけ、道と川の駅「花ロードえにわ」のリニューアルのほか、市による「はなふる（都市公園）」整備とともに、民間事業者による新住宅団地の建設や、Park-PFIを活用した飲食・宿泊施設の誘致などを進めてきた。本事業は、これらの整備と連携し、河川管理用通路の整備を通じて漁川と公園や市街地との連続性を向上させるとともに、漁川の親水性や利便性を高める親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ったものである。



花の拠点と漁川

3. 事業の成果

国・市・関係機関が連携して本事業を含む一連の整備を進めたことにより、例えば、令和4年6月に開催された花の拠点をメイン会場とするイベントでは全国各地から約34万人を集客するなど、当該エリア全体の魅力向上が図られている。

さらに、年間100万人以上が来場する道と川の駅の集客力との相乗効果もあり、周辺の飲食店や農畜産物直売所等の収益力向上にも繋がっている。



連携イベント実施時の水辺の様子

4. おわりに

当該エリアでは、令和4年5月に花の拠点内にホテルが新規開業するなど、恵庭市の交流観光の拠点として、市民や観光客が気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しむことができる魅力あるエリアとしての役割を担っている。

漁川の水辺空間では、更なる利活用の促進に向けて河川空間のオープン化を進める「都市・地域再生等利用区域」の指定を予定しており、花の拠点の各コンテンツや各種イベント等とも連携しつつ、飲食など憩いの場として、豊かでかけがえのない時間を過ごすことができる水辺空間の創出を目指している。

③^{てしかが}弟子屈地区かわまちづくり事業 ～まちづくりと一体となった川づくり～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所
北海道弟子屈町

キーワード 水辺と地域の魅力向上、まちづくりと一体となった川づくり、道の駅満足度ランキング

全建賞審査委員会の評価ポイント

まちづくりと一体となった河川空間整備事業。温泉街の近傍における河川整備と一体となった公園（都市）、遊歩道等（道路）、観光交流館の整備により、水辺と地域の魅力が向上され、弟子屈町の観光客数や道の駅利用者が実際に増加した点や、地域全体を対象にデザインされ、多数のステークスホルダーの参加を促し、計画を策定し実行している点が評価された。

1. はじめに

釧路川は、その源を藻琴山等、屈斜路カルデラの外輪山に発し、屈斜路湖から流れ出て、弟子屈町、標茶町を流れ、釧路湿原に入り、岩保木地点で新釧路川となって、釧路市街地を貫流して太平洋に注ぐ一級河川である。平成24年2月に「弟子屈地区かわまちづくり」計画が登録され、まちづくりと一体となった川づくりを行った。

2. 事業の概要

「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組で連携することで、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組である。弟子屈町は観光を基軸としたまちづくりが活発に推進されており、弟子屈市街中心を貫流する釧路川は、まちづくりには欠かせない重要な資源である。そこで、弟子屈町で整備した既存の都市公園や商店街、観光資源をネットワーク化しアクセス性を高めるため、親水護岸の整備（護岸の緩傾斜化）や管理用道路を整備した。



親水護岸や道の駅リニューアルで川に接しやすく！

3. 事業の成果

取組としては、町民、観光客、ドライバーを水辺に導くため、温泉郷と釧路川を核に豊かな河川環境を生かした地域づくりを行い、観光交流拠点の再生とともに町民と来訪者との交流空間が創出され、親しみの持てる河川空間とするべく、町民（学生）に公園施設の名称募集や夏祭り会場に利用するなど地域が一体となる活動、関心を高める工夫を行っている。また、釧路川に近接する道の駅「摩周温泉」は、平成23年7月にリニューアルされ、入館数が急増し、平成27年には旅行雑誌の読者アンケート「道の駅満足度ランキング」で総合1位に選出されている。これらの取組が、観光客の入込み数の増加と地域活性化につながっていると考えられる。

4. おわりに

近接する既存の公園や市街地と連続性を持つ河川沿い管理用道路が整備されたことで、観光客が釧路川沿いを散策しながら、町内の観光交流拠点巡りや市街地の移動を手軽に楽しめる水辺空間となった。

また、令和4年7月には完成した「釧路川ふれあい広場」でオープニングセレモニーが開催され、開催後は夏祭りが行われるなど、積極的に水辺空間が活用されている。今後も各種イベントやお祭り、新たな観光メニューのほか、環境教育などの場としてより一層活用されることが期待される。



「釧路川ふれあい広場」 オープニングセレモニーの様子

賛助会員 (株)建設技術研究所、パシフィックコンサルタンツ(株)、日本工営(株)